



連載⑧

河北総合病院はこれまで本院のほか、分院、西館などいくつかの建物に分散しており、患者はもとより来訪者、従事者にとっても、それぞれが不便さを感じてきた。今回の新病院は分散していたものが統合され、単に新しい建物というだけでなく利便性、機能性が発揮されるに違いない。今回の設計、施工を担当したのは清水建設株式会社。プロジェクトの最初から関わってきた同社設計本部、医療福祉施設設計部の副部長、大石茂氏にハード面から見た新病院について語っていただいた。

(中田)

病院らしさを抑え 森の中に癒されに行くような空間へ

新病院の敷地はかつて屋敷林が広がっていた場所であり、地区計画に基づき、緑を最大限に残しています。都心にありながらも「森の中の病院」というコンセプトのもと、自然と調和した環境を大切にしました。建物は一定の規模がある為、周囲の住宅街と調和するよう、高さを段階的にすることでボリューム感をやわらげ、外装にはアースカラーを採用しています。

緑については、大きな木は切らずに移植し、新たに武蔵野の樹種を選んで植樹もしており、高い緑化率を実現。建材には木材や天然石などの自然素材を多用し、インテリアも周囲の緑と馴染むデザインとしました。また、大きな窓から柔らかな自然光を随所に取り入れることで、温かみのある空間を演出しています。病院は「行きたくない場所」となりがちですが、病院らしくない、森の中に癒されに来たと感じられるよう工夫しました。

また、これまで分散していた病院機能を集約し、100台以上の駐車場を確保することで、来院しやすい環境を整えました。2階の外来メインフロアは森の雰囲気をも感じられるところで、「ホスピタルコリドー」(回廊)として開放的でゆったりとしたスペースで過ごしていただくことができます。診察室の近くで待つのではなく、モニターに番号が表示されることで、時間が近づいたら診察室近くに段階的に移動できる仕組みを導入し、待ち時間を少しでも快適に過ごせるように配慮しています。

ZEB 認証を都内民間病院で初取得

環境への配慮として、国が進めている ZEB Oriented (ゼブ) (Net Zero Energy Building=ネット・ゼロ・エネルギー・ビル) の認証を取得しています。これは、快適な室内環境を維持しながら、年間の一次エネルギー消費量の収支をゼロにすることを旨とした建物に与えられる認証です。急性期病院では都内初、全国でも3例目となり、都内では最もエネルギー消費が少ない病院となります。病院は24時間エネルギーを使いますが、建築設計



の工夫によって省エネを実現しました。例えば、西側に森を配置し、東西面に向けた窓を最小限にすることで建物の熱負荷を軽減。さらに、消費エネルギーの少ない設備機器を導入するなど、工夫を施して実現できました。

職場環境の充実が医療の質の向上にもつながる

スタッフの方々の働き方については、「河北ダイバーシティ」というコンセプトを掲げ、多様な働き方を支える環境を整えました。例えば、ドクターの医局を他の職種と一緒にフリーアドレスのスペースにして、モニターを見ながら打合せが出来るようにするなど、医師だけでなくチーム全体で患者さんを診ることを大切にしています。また、森が見える休憩室や職員食堂、一人になれる静かな空間なども整備。患者さん中心の「ホスピタルコリドー」は、職員も利用できるなど、働く環境の充実が、結果として良い医療につながると考えています。

私自身、計画当初から病院の基本方針や新病院にかけける熱い想いを伺いながら形にしてきました。自然素材を活用し、最先端の環境配慮やこの阿佐ヶ谷の地に永年あった森を活かす工夫など、多様な要素が盛り込まれています。訪れる



清水建設株式会社
設計本部・医療福祉施設設計部
副部長
大石 茂 氏

方々が院内の随所で、それらを感じ取っていただける空間となっています。

【訂正とお詫び】本連載の前号でご登場いただいた岡井隆広先生のご紹介の中で、「副院長」と記載がありましたが、正しくは「院長補佐」でした。訂正とお詫び申し上げます。

高井戸ライオンズクラブ

田中史朗トークショー『人生へのトライ』

4月21日、東京高井戸ライオンズクラブ主催のトークショー「人生へのトライ」が吉祥寺東急REIホテルで開催され、現在は「NECグリーンロケッツ東葛」でアカデミーディレクターを務めている、ラグビー元日本代表の田中史朗さんが登場。現役時代の経験のほか、現役引退後の生活や指導者としての取り組みについて語った。

田中さんが大切にしてきたのはコミュニケーション。外国人選手とも積極的に関わり、共に過ごす時間と相互理解を重視した。エディ・ジョーンズ監督やジョセフ監督の厳しい指導と、リーチマイケル選手のキャプテンとしての統率力に感

銘を受けた。自身もチームのために、嫌われることを恐れず意見を伝え続けてきたと振り返り、監督、キャプテン、選手それぞれの立場のリーダーシップのあり方について考えを述べた。全体を通じて、コミュニケーションと挑戦することを大切にすることを伝えた。



第47回 わんぱく相撲杉並区大会開催

5月18日、阿佐ヶ谷中学校体育館で「第47回わんぱく相撲杉並区大会」(主催:東京青年会議所杉並区委員会)が開催された。当日は杉並区在住・在学の小学生約200人が参加。取り組みのたびに歓声がとび、大いに盛り上がりを見せた。体格の違いがありながらも勇気を持って相手に立ち向かい、試合終了後には悔し涙を流しながらもお互いにお礼を交わす。そんな子どもたちの姿からは、「勇気・礼節・感謝」という大会スローガンに沿う清々しさが感じられた。



3年生男子の部決勝の様子

また、大会の中盤では「ママさん腕相撲大会」も行われ、保護者16名が参加。優勝賞品のお米約20キロ分をめぐって、子どもたちにも負けないほどの白熱した戦いを繰り広げた。



編集長のつぶやき



言論の場の品位、品格

杉並区議会で懲罰特別委員会が開かれている。ここで問題になっている事案があった当日、私は議場でその場面を傍聴していた。政治家が敢えて声を大きくし、アクションを交えて発言することは他でもよくある。その発言を直接向けられた人(答弁者等)にとっては、パワハラだと感じることもあるかもしれない。ただこの委員会は「パワハラされた!」と訴えが出たのではなく、数名の議員が「(議会の品位を損ない) けしからん」と動議を提出し、懲罰を求めたもの。政治家として、主義主張、信条信念の違いがあれば、議員同士でも区長部局とも、対立的な言動になることはあり得る。言葉や言論を重んじるべき議会で、区民から選ばれた議員に対す

る「懲罰」の可否や内容を決めるには、重大な責任と覚悟が求められるはず。感情的にならず、理路整然と言葉を整理して議論すべきであろう。

実は私は問題の「演台叩き」よりも、議場内の他の議員のことを、強い表現で評したことの方が気になった。本人が反論できない場面で公的な発言に含めるのはいかなるものか、と感じた。議会の発言は議事録や中継・録画配信に残る。揶揄や不適切な例え、罵詈雑言や事実でないこと、個人の名誉に関わる内容を安易に垂れ流すのでは、区民から選ばれた議員、議会の品位、品格が問われる。杉並区議会では是非、区民が誇れる見ごたえ聴きごたえのある「論戦」を期待したい。

編集発行人 中田あかね

すぎなみ ace はこちらに置いていただいています

アイ・ティ・エス/アヌマコムギ/阿佐ヶ谷すぎ診療所/アンファミユ(enFamille)/石井薬局/大敷保険コンサルタント/おきやんち/オートセンターイグチ井草店/カレーショップKYU-/河北総合病院/木村屋/KUMARI 阿佐谷/高円寺南保育園/高円寺ルック商店街組合事務局/興建社/さんじゅ阿佐谷/さんじゅ久我山/視覚障害者支援総合センター/新泉サナホーム/杉並区立中央図書館/西武信用金庫 阿佐ヶ谷南支店/ツバメ眼鏡店/とらや椿山/脳梗塞リハビリセンター阿佐ヶ谷/PIZZA FORNO CAFÉ ビーンズ阿佐ヶ谷店/マイルドハート高円寺/ミスティ・オーパース/武蔵商事/Yazetto/渡辺建設

私たちは すぎなみ ace を応援します!



株式会社 オータカ

代表取締役社長 大高一義
東京都杉並区堀の内3丁目37番5号
Tel. 03-3315-7151



株式会社 コージー

代表取締役 氏橋治信
東京都杉並区成田西3-12-9
Tel. 03-3392-8161



有限会社 ヒロ空間企画

代表取締役 小野博文
東京都杉並区方南2-12-18 多田ビル4F
Tel. 03-3318-1073